学校番号	1009

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	国語総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「標準国語総合」（第一学習社）						
副教材等	ダブルクリア（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代文・古典の両方を学びます。授業では内容の理解を目指す一方で、教科書で使われている言葉や優れた表現に出会い、それらを自分の表現に役立てることを意識してほしいと思います。自分の実生活を振り返り、知識としてだけでなく実感として作品を読み深めていきましょう。また、授業に積極的に取り組み、提出物の期限は必ず守って取り組み、１年間がんばりましょう。

２　学習の到達目標

・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
・思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
・言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、相手の話すことを的確に聞き取り、また話し合うことで、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現を自分で考えて文章で書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読むことで、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言語の特徴や決まり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察 ・記述の点検（プリント・ノート等）	・行動の観察 ・記述の点検（題・プリント・ノート等）	・記述の点検及び分析（プリント・ノート等） ・定期考査	・行動の観察 ・記述の点検（プリント・ノート等） ・定期考査	・行動の観察 ・定期考査 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1	筆者の考えを読み取るⅠ	評論「人はなぜ仕事をするのか」	○	○	○			a：段落の構成や文章の展開に着目し、筆者の考えをまとめようとしている。 b：筆者の想いや考えに対する自分の考えをまとめ、他者に話したり聞いたりしている。 c：筆者の考えを整理し、自分の言葉で書いてまとめている。	a：行動の観察 b：行動の観察 記述の点検 c：記述の確認 定期考査
2	古文に親しむ 筆者の想いを読み取る	「三文にて歯二つ」(『沙石集』) 随想「黄色い花束」	○			○	○	a：語句の意味や文法を理解しようとしている。 ｄ：適切に口語訳に直すことができる。 e：本文の特色ある表現の意味や書きぶりについて理解している。 a：文章の構成や語句の意味、表現の技法に気づき、考えようとしている。 ｄ：筆者の考えについて要点をまとめ、理解している。 e：本文の特色ある表現の意味や書きぶりについて理解している。	a：行動の観察 d、e：記述の確認 定期考査 a：行動の観察 d、e：記述の確認 定期考査
3	名作に触れ、読み味わうⅠ 物語のはじまり	小説「卒業ホームラン」 古文：「なよ竹のかぐや姫」(『竹取物語』)	○			○	○	a：人物、情景、心情などを読み、筆者の主題に迫ろうとしている。 d：人物、情景、心情などを、なぜ筆者がそのように書いているのかを考え、その効果に気づいている。 e：本文の特色ある表現の意味や書きぶりについて理解している。 a：語句の意味や文法を理解しようとしている。 ｄ：適切に口語訳に直すことができる。 e：作品の歴史的背景を理解し、「物語」のはじまりとして、作品を読み深めることができる。	a、d：行動の観察 記述の点検 e：記述の確認 定期考査 a、d：記述の点検 e：記述の確認 定期考査

4	名作に触れ、読み味わうⅡ 古人の感性を読み味わ	小説:「鏡」 古文:「仁和寺にある法師」 (『徒然草』)	○			○	○	a：筆者特有の表現を読み味わい、文体の特徴を理解しようとしている。 d：小説の主題を適切に理解し、小説の問いかけに対して、自分の考えを深めることができる。 e：小説の展開や主題について理解している。 a:語句の意味や文法を理解しようとしている。 d：適切に口語訳に直すことができる。 e：時代性や背景を理解している。	a、d:行動の観察 記述の点検 e:記述の確認 定期考査 a、d:記述の点検 e:記述の確認 定期考査
5	筆者の考えを読み取るⅡ 漢詩に親しむ	評論:「科学は正しいか」 漢文:「静夜思」「春暁」「春望」	○			○	○	a：文章の構成や語句の意味、表現の技法に気づき、考えようとしている。 d：筆者の考えについて要点をまとめ、理解している。 e：筆者の意見を読み取り、自分の考えや表現にいかすことができる。 a：漢詩の種類や形式を理解し、筆者の想いを読み取ろうとしている。 d：訓読に従って、書き下し文に直し、訳することができる。 e：学習する漢詩の展開や意味を理解している。	a、d:行動の観察 記述の点検 e:記述の確認 定期考査 a、d:記述の点検 e:記述の確認 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力

d:読む能力　　e:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。